事例No.	2041
公表年度	R4
団体の属性	一般市
団体名	熊本県荒尾市

事例区分	DX

タグ	・福祉・介護 ・ICT ・EBPM

事例種類	医療・福祉・健康

事例内容・タイトル

スマートシティ構想におけるデジタルを活用したヘルスケアの提供

出典

地域社会のデジタル化に係る参考事例集【第2.0版】

61 スマートシティ構想におけるデジタルを活用したヘルスケアの提供【熊本県荒尾市】

事業の概要

○ 荒尾市は、国土交通省のスマートシティ先行モデルプロジェクトに選定されており、あらおスマートシティ推進協議会にて「荒尾ウェルビーイングスマートシティ実行計画」に基づき、ヘルスケア、エネルギー、モビリティ、防災・見守り、データ利活用等の分野で取組を実施している。

○ ヘルスケア分野では、COI東北拠点（東北大学）と連携し、「さりげないセンシングと日常人間ドック」のコンセプトに基づき、市民に健康的な行動変容を促すスマートヘルスケアサービスの実証実験に取り組んでおり、映った人の体調がわかる「ウェルビーイングミラー」などにより日々の体調を可視化・分析し、お勧めの食事や行動を示唆することで、市民の健康的な生活への行動変容を促すシステム構築を行い、社会受容性や事業性について検証を行っている。



ウェルビーイングミラー

【参考情報①】 人口：5.1万人　関連URL：
https://www.city.arao.lg.jp/shisei/machi-zukuri/smart-city/（市HP）

【参考情報②】「スマートシティ実証調査」（国土交通省）とは
※令和3年度補正より国土交通省「技術研究開発費補助金」に変更
URL：
https://www.mlit.go.jp/toshi/tosiko/toshi_tosiko_tk_000040.html

もっと知りたい！ 担当者にインタビュー



取組の経緯・きっかけを教えてください。

（総務省）



荒尾市では、国民健康保険及び後期高齢医療制度の一人当たり医療費が全国平均や熊本県、類似団体を大きく上回っており、特に生活習慣に起因する疾患での医療給付費が高いとの課題があったため、生活習慣の改善で市民の健康寿命の延伸と健康格差の解消を目指しています。（荒尾市）



導入又は実証時において、国又は都道府県の支援制度（人的支援や技術提供、補助金等）を活用しましたか？



令和2年度は国土交通省のスマートシティ実証調査を活用してスマートヘルスケアサービスの社会受容性の検証を行い、令和3年度は、同補助事業により、前年度行った受容性確認から一歩進め、目標である「健康的な生活習慣への行動変容」に寄与しうるかの概念検証（ＰｏＣ）、技術検証（ＰｏＴ）、事業検証（ＰｏＢ）の実証実験を実施しました。



事業の近況を教えてください。



令和4年度も過去2回の実証を踏まえて国土交通省技術研究開発費補助金を活用してヘルスケアサービスのビジネススキームを具体化する実証実験（PoB）を実施します。また、データ連携基盤の構築により、各分野のサービスを分野横断的に連携し、相互にデータを融通することで新たなサービス・価値を創出することを予定しています。

★担当：荒尾市総務部 総合政策課スマートシティ推進室★

令和3年度事業費　15,000千円
（うち、スマートシティ実証調査（国土交通省）　15,000千円）